



第 329 号 平成17年12月 1 日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2 階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 長 村 吉 朗

第55回全国学校保健研究大会、第36回全国学校保健・学校医大会に参加して

会 長 長 村 吉 朗

11月11日から、滋賀県大津市で開催されました第55回全国学校保健研究大会及び第36回全国学校保健・学校医大会につき報告いたします。

今回の滋賀県大会は、11年前の和歌山大会以来久しぶりの近畿での大会開催であり、木曜からの全国学校保健研究大会より参加をいたしました。大多数の学校医の先生にとりまして全国学校保健研究大会及び全国学校保健・学校医大会と言いましても、どういう性格のものかはおわかりにならないと思いますので少し説明をしておきます。全国学校保健研究大会（以下研究大会と略す）は文部科学省主催で年に1回開催されるもので今年で55回を数え、10月ないし11月の木・金の両日開催されます。初日は開会セレモニーの後、学校保健及び学校安全に対する文部科学大臣表彰が行われ、今回全国より学校医55名、学校歯科医35名、学校薬剤師23名、学校長7名、養護教諭9名が受賞されました。今回京都市よりは京都市学校薬剤師会の渡邊絹代先生一人が受賞され、歯科で宮津市の清水先生の受賞がありましたが、学校医の受賞は対象者が無く寂しい思いをいたしました。受賞者の中で学校医が占める割合は高いにもかかわらず、参加される学校医はごくわずかで京都府よりは私一人でしたが、一人の参加もない県も多く見られています。その理由は後ほど述べることでしまして、表彰式の後、午後からは講演会となり、今回は兵庫教育大学副学長 勝野真吾先生の「学校健康教育への期待と役割」でした。翌金曜日は10部会に別れる課題別研究協議会で午前中より始まり、午後からは全国学校保健協議大会が行われ両日共に早々

に終了いたします。今回は木曜日に双方とも開催されましたが、多くの場合木曜日に全国学校歯科医協議会が、また金曜日に全国学校薬剤師大会／全国学校保健協議大会がそれぞれ地元歯科医師会及び薬剤師会主催で研究大会閉会後開催され、大臣表彰受賞者の紹介、記念講演、懇親会がそれぞれ別の会場に移動して超特急で行われます。私も学校医にとりましては、今回第36回全国学校保健・学校医大会（以下学校医大会と略す）となりましたが、この会を研究大会終了後の土曜日に日本医師会の主催で開催する事となります。学校医大会の内容につきましてはこれまでも毎年ご報告しておりますし、又参加される先生方も多くおられますので存じのこととは思いますが、午前中に4部会に別れる分科会が、午後よりはシンポジウム、特別講演そして懇親会と一日をフルに使っての会となります。また当日は日本医師会長表彰が行われますが、前々日の文部科学大臣表彰については報告もなされません。尚、本年度の日本医師会長表彰は京都市より故羽場前会長と矢野養護教諭が受賞されました。研究大会と学校医大会にはこのような違いがあるのですが、おわかりになりましたでしょうか。開催回数も全国学校歯科医協議会、全国学校薬剤師大会／全国学校保健協議大会がいずれも55回と研究大会と同じであるのに対し、学校医大会は36回とずれがあり、その以前はどうなっていたのか少し気になります。学校医大会は昭和45年秋田大会が第1回となりますが、各地にありました学校医会組織を日本医師会が都道府県医師会に吸収合併するように指示をし（私も京都市学

校医会は先輩諸先生方のご努力により存続しておりますが)、大多数の学校医会が消滅したことと関係があるのかも知れません。もしご存じの方がおられれば、お教えいただけると幸いです。しかしながら開業している私どもに取りまして、木曜から休診しますと「よろしい—ですな—、海外旅行ですか—？」等と気の弱い私には嫌みの一言でも気に掛かります。その様な方が多いために、学校医は学校医大会1日のみの参加となるのではないかと考えます。研究大会の課題別研究協議会は、講義と発表の二本立てで流石に面白いものがありますのに残念なことです。ちなみに今回の講義では東京大学教授 衛藤隆先生による「生涯にわたり健康の保持増進をめざす疾病予防と保健管理の進め方」を聞いてきましたが、他の会場におきましても聞いてみたい講義内容が多く見られました。今回の研究大会で残念であったことは、参加者の数のためか会場が琵琶湖ホールと大津プリンスに別れ連絡手段が乏しかったこと、それとせっかくの良い講義を一つしか聴けなかったことで

した。

13日には学校医大会に私と奥村、平位両副会長、林専務理事、竹内、藤田、青木常任理事並びに福田副議長、井上耳鼻咽喉科医会会長、星谷耳鼻咽喉科医会理事、新井眼科学校医会副会長、府医からは岡林理事の計12名が京都から参加致しました。

午前中の分科会報告では、第2分科会「からだ・こころ(2)」に出席しました。シンポジウムは「軽度発達障害をめぐって・・・学校医が出来ること」であり、特別講演では延暦寺学問所所長 小林隆彰氏による「一隅を照らす 人生お返しのことろ 奪いのところからおかえしへ」と言う話で、アメリカ人に聞かせたいものだと思います。これらの資料は全て事務局にございますので、興味がございましたらごらんいただければ幸いです。

以上が大会の概要です。なお次回の大会の開催地は島根県松江市で研究大会が11/9・10、学校医大会が11/11と決定されました。

「からだ・こころ」第1分科会の報告

福西小 奥村正治

11月12日(土)午前10時より正午までの2時間、12題の演題。例年になく演題数が多かったのか、時間を気にする。又、質問等も4題まとめてという発表でした。1～4題が、どちらかというと、こころのエリア、5～12題が、からだのエリアという形で区分され、1～4題では、「虐待事例」「生活のリズムと家族のふれあい」「心の問題・心の不健康」「学校及び学校医の意識調査」と主題が分かれるが、5～12題のからだになると、「保健講話」「血液検査およびライフスタイル」「生活習慣病予防検診」「生活習慣病対策事業」「脂質追跡検診」「生活習慣病調査」「血液脂質の推移」「生活習慣病予防対策委員会」と8題とも表現には差のあるものの、現代病が子供にもと云われる「生活習慣病」による演題ばかりであった。いずれも児童、生徒から当然であるが採血をし、考察がなされている。我が市においても採血という問題と費用のかかる検査に取り組む時期に来ている

のでは? いや時期からいうとおそいのでは? という印象でした。

12題の中で、佐賀県における「学校及び学校医の意識調査—学校は学校医を、学校医は学校をどのように思っているか?—」を少し紹介しましょう。

学校職員(管理職・保健主事・養護教諭・学級担任)1169名のアンケート結果から、「体の問題の相談相手はだれ?」の問に、学校医は14.6%、心の問題にいたっては1%である。又、「学校医へよく相談しますか?」の問には、よくする、時々するを合わせて25.3%、あまりしない、しないを合わせると74.4%にもなっている。又、「学校医に望んでいる事がありますか?」には、特にない79.8%と教職員からは、役立っていない様である。

この望んでいる事に有ると解答したものは、大半が養護教諭であったと。養護教諭→学校医への相談はあっても、他の教職員→学校医への相談はない様

である。

一方、学校医193名のアンケートからは、「学校から、相談・報告がありますか？」の問には、よくある12%、時々ある55.5%合わせて67.5%になる。まれにある27.2%、ない5.2%合わせて32.4%と、学校と学校医との間には、かなりのへだたりがあるようである。質疑においても同様の結果を得ているという、他県の校医の先生の話もあり、学校→学校医へ

の相談は、本来あってしかるべきと思われるのであるが、実際は非常に少ない様である。学校医だけの努力で相談件数が増加するとは思えないが、努力せねばならない課題であろうと思う。

現在、中学校だけではあるが、京都市も教職員・学校医にアンケートがなされている。
京都も同じ様な結果になるのであろうか？

第2分科会「からだ・こころ(2)」に出席して

副会長 平 位 喜七郎

この分科会では、12の演題が発表されました。からだのテーマが9題、こころのテーマが3題でした。からだの演題では、市や県単位で取り組まれた結核対策、腎臓健診システム、心臓健診、インスリン抵抗性の分析、アトピーの意識調査等が発表されました。

京都からも福田潤先生が「高校運動部生徒の栄養摂取状況について」と題して各種運動競技力の向上に正しい栄養摂取が必要なことを例証され、地域の教育委員会関連スポーツ施設で栄養相談を実施する必要を強調されました。

こころの演題では、東京都立高等学校における

「思春期健康相談モデル事業」の立ち上げについて、産婦人科医の協力を得て性教育実施の適正なあり方や進め方のモデルをつくっている報告がされ、開催県の滋賀県からは軽度発達障害のアンケート調査が報告されました。滋賀県では本年4月A会員全員に軽度発達障害についてアンケート調査を行い、回収率は40.9%でも軽度発達障害について4割以上のドクターが理解者であり、35.6%のドクターが診療経験を持っていたこと、診療経験の無いドクターでも7割の人が勉強の意欲を示されていた結果を報告していました。

第25回小学生記録会駅伝競走に出務して

会長 長 村 吉 朗

12月4日の小学生駅伝走記録会に、奥村副会長とともに医務員として出務いたしましたので報告させていただきます。

この競技は、鴨川の出雲路橋から北大路橋の間の河川敷を1周する約1.7kmのコースで行われます。今年は出雲路橋西北の走路もごく最近に砂が敷き詰められ、これまでより走りやすい環境となっていました。参加者は113校、497チーム約2500名で、昨年より参加校はやや少ないものの参加チーム数は増加し教育大附属の参加もあり、朝早くから子供たち

の熱気が伝わってくるように思われました。しかしながら当日は日本列島を二つの低気圧が挟む冬の大荒れの天気図の通り、寒く冷たい雨が開会式の時点で既に降り出していました。当日の天気予報では午後から雨が降り出すと言う予報で開催が決定されたようですが、残念ながら雨の降り出しが早まってしまうしました。このような多くの参加者のある行事の場合、中止の決定をかなり早く出さなければいけないため、主催者の判断は最近かなり正確にはなってきたとはいえ天気予報にかかっています。

医務室を訪れた子どもたちは12名で転倒による擦り傷が半数でしたが、予想通り体温低下によると思われる気分不良などの症状で来室した子どもたちも4名おりました。しばらくベッドで休ませておくことで回復しましたが、暖かく乾いた着替えを十分用

意していない子どももいて、今後の事前指導の必要性を感じました。

ともあれ昨年のような結果を聞いて後でビックリと言う受診者もなく、雨が小降りとなった寒空のもとの閉会式となり終了致しました。

おしらせ

平成17年12月8日
京都市教育委員会（教育環境整備室 222-3789）

京都市立学校・園等における吹き付けアスベスト等の使用実態調査について(最終結果)

本市では、平成17年7月1日の石綿予防規則施行や、昨今の事業所等のアスベスト被害の社会問題化に鑑み、子どもたちの安全対策に万全を期すため、現在の規準に照らし合わせ、学校施設や社会教育施設等（340施設）における吹き付けアスベスト等の使用実態調査を下記のとおり実施いたしました。

本年9月段階で、学校施設については272校4分校についてアスベストを使用していないことが確認されましたが、残る14校及び社会教育施設等（50施設）については引き続き調査を行ってきました。

このたび、残る施設等の分析が完了し、その結果3施設からアスベストが検出されましたが、いずれの施設についても幼児・児童・生徒に触れることのない天井裏や電気室等で、大気中にも飛散していない安定した状態です。

記

1. 調査対象

平成8年度以前に竣工した校舎、体育館、屋外倉庫等、全ての建築物。

① 吹き付け石綿等

石綿障害予防規則（平成17年7月1日施行）に定める、重量が当該製品の重量の1%を超えて含有する石綿等で、建築物の壁、柱、天井等に吹き付けられたもの。

＊ いわゆる「吹き付けアスベスト」、「吹き付けロックウール」及び「吹き付けひる石（パーミキュライト）」等と呼ばれているもの。

② 折板裏打ち石綿断熱材

鋼板製屋根用折板等に主として結露防止等のために張り付けられたもので、石綿を含有する製品。

2. 調査対象施設 340施設

平成8年度以前に竣工した建物のある幼稚園（15園）、小学校（179校3分校）、中学校（78校1分校）、高等学校（8校）、養護学校（6校）の計286校4分校。また、閉鎖校や図書館、生涯学習施設などの社会教育施設50施設。

3. 調査結果（次の3校以外はアスベスト「なし」）

(1)

校・園名等	市立鏡山小学校（山科区御陵血洗町18）
アスベスト検出場所等	給食サービスホール天井裏 100㎡
アスベスト含有率	白石綿 1.2%
空気環境濃度	0.7f/ℓ未満のごく微量

(2)	校・園名等	市立呉竹総合養護学校（伏見区桃山福島太夫北町52）
	アスベスト検出場所等	電気室壁面・天井 77.6㎡ 発電機室壁面・天井 77.6㎡ * 電気室，発電機室とも部屋全体に吹き付け。
	アスベスト含有量	白石綿 1.5%（電気室壁面・天井） 白石綿 4.0%（発電機室壁面・天井）
	空気環境濃度	0.8 f/ℓ（電気室） 1.1 f/ℓ（発電機室） 〔大気汚染防止法による敷地境界線上〕 アスベスト基準濃度 10 f/ℓ

(3)	校・園名等	市立西院幼稚園（右京区下花田町34）
	アスベスト検出場所等	1 階及び 2 階天井裏・梁 820㎡
	アスベスト含有率	白石綿 9.6～17.4%
	空気環境濃度	1 階，2 階とも 1.2 f/ℓ 〔大気汚染防止法による敷地境界線上〕 アスベスト基準濃度 10 f/ℓ

* 石綿障害予防規則により，製品重量の 1%を超える製品を「あり」とする。

大気汚染防止法による敷地境界線上アスベスト基準濃度 10 f/ℓ

* 「アスベスト基準濃度」については，自然界においても 1～2 f/ℓ 程度は常に存在

4. 検出場所の状態

- (1) これらの施設は，全て直接，幼児・児童・生徒に触れることのない場所です。
- (2) また，いずれの施設も空気中のアスベスト濃度は大気汚染防止法による空気 1 リットルあたり 10 本規準を大きく下回っており，飛散の恐れはありません。

5. 今後の対応

(1) 鏡山小学校

天井裏にある含有量の低い吹き付け材であり，かつ，安定して状態で空気環境濃度も検出できないほどの低い状況であることから，定期的に空気環境濃度を測定しながら，引き続き使用いたします。

(2) 呉竹総合養護学校

比較的含有量が低く，安定した状態で室内の空気環境濃度も極めて低いですが，電気室等の壁面・天井に「吹き付け」が行われているため，現在，施錠を行っております。しかしながら，職員の安全管理に万全を期すため，含有吹き付け材の除去を行うことが望ましいと判断し，夏休みなど教育活動に支障が出ない時期に除去作業等を行うことといたします。

(3) 西院幼稚園

天井裏にあり安定した状態で室内の空気環境濃度も極めて低いところであるため，定期的に空気環境濃度を測定しながら，引き続き使用いたします。

第8回 常任理事会

平成17年12月3日
於 事務局

出席者 長村会長、平位副会長、林専務理事、井上、
中野、藤田、竹内、各常任理事、佐野眼科
学校医会副会長、星谷耳鼻咽喉科医会理事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 精神衛生研究会 11/10 (平位)
7名の参加
2. 全国学校保健協議大会 11/10・11 (長村)
今月号参照
3. 全国学校保健学校医大会 11/12 (長村)
今月号参照
4. 色覚相談 11/15・22 (佐野)
11月15日 2名、11月22日 2名
(市外1名)
5. 心臓相談 11/16 (林)
肺動脈閉鎖術後の小2男児、Dの指導
6. 100周年記念誌委員会 11/18 (長村)
次回2月に
7. 学校保健会表彰祝賀会 11/19 (長村)
全日空ホテル、学校保健会創立40周年
8. 左京支部会 11/20 (平位)
アピカルイン京都、11名(校医9名、スクール
カウンセラー2名)の参加
9. 歯科医師会会員大会 11/26 (長村)
全日空ホテルにて

<協議事項>

1. 定期結核健康診断結果について
ツ反強陽性の小1の男児、精査の結果、結核は
否定
ツ反から精検、結果判定まで、時間がかかり過
ぎる点について要検討

2. 小学生記録会持久走について 1/22
長村、林の出務
3. 大文字駅伝大会について 2/12
各中継点に“AED”を準備
4. 京都市学校保健協議大会について 2/21
12月9日迄にシンポジストの人選
5. 新任校医研修会について
6. 「校医」新年号原稿依頼
7. その他
 - ・「自閉症児の受診に際しての工夫」の講演会
を京都小児科医会と共催
 - ・中学校医へのアンケート、約80%の回答

<関連学会・各種協議>

1. 小学生記録会駅伝競走 12/4
長村、奥村の出務
2. 色覚相談 12/6・13
3. 精神衛生研究会 12/8
4. その他 1/6 歯科医師会互礼会
長村の出席
5. 次回常任理事会 1/7
(於) ちもと 5:00PM～

